

book

最近、おもしろかった本

『ビジュアル式 数学嫌いが治る本』

竹内薫 著 インデックス・コミュニケーションズ 1575円（税込）

実社会で数学はこんなふうに使われている！

本書は、簡単なグラフの読み方の説明から始めて、最終的には最新の金融派生商品の価格計算にも用いられているブラック・ショールズ方程式とやらまで理解してしまおうというものだ。

最近、書店には、大人向けに数学や算数の再度の勉強を勧める本が多く並んでいる。しかし、その種の本の中には教科書の焼き直しの的なものであったり、あるいは単に計算をひたすら繰り返させる無味乾燥なものも多い。

ところが本書は、その種の本とはやや異なる。あくまでも数学が実社会においてどのように使われているか、あるいは数学を用いることによってどのような事象を解明できるのかを通じ、細かい計算ではなく数学の「コンセプト」をつかむことを目標としている。そのため、具体的な物事を切り口にして様々な数学の概念や数式を説明していくという構成になっている。

たとえば、カジノのルーレット必勝法や株価から「乱数」や「確率論」を、また、インターネットのセキュリティシステム（「SSL」や「PGP」といったもの）から「素因数分解」を説明していくといった具合だ。

2次関数のグラフの説明では昨年起きた芸能人のベランダからの転落事故も題材となっている。2次関数のグラフ等を

用いて、転落時の飛び出し速度を導き出し、その真相（単なる事故か自殺未遂か）を推察したりしている。また、指数関数という概念の説明ではヤミ金の金利なども引き合いに出されている。

さらに、本書の大きな特徴は、その「ビジュアル式」との題名にもあるように、グラフや図形、イラストが多用されているということである。これにより、理解が助けられるとともに飽きずに読み進めることができる。

ただ、ブラック・ショールズ方程式という最終的な目標設定が高すぎるためか、本書の中盤以降は難解な数式が頻発するようになり、数学が本当に苦手な人間には読み進めていくのが辛くなってくる。ちなみに、本書によればブラック・ショールズ方程式というのは、「コールオプション」という金融派生商品の価格を導き出すのに用いられているとのこと。ただ、残念ながら私には本書を一読しただけではその意味するところはなかなか理解し得なかった。とはいえ、金融取引の裏でこのような精緻な計算が行なわれていることを知るだけでもそれなりに面白い。

数学嫌いが治るかはともかく、数学に対する興味が湧いてくる1冊である。

(会員 民部田 正史)



cinema

心に残る映画

『ビッグ・フィッシュ』

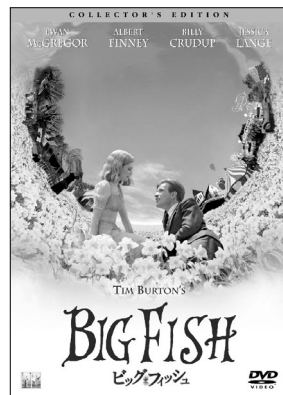
2003年／アメリカ／ティム・バートン監督作品

心が温かくなる…父と息子の物語

親と子、夫婦の愛情、この2つの根元的な愛が描かれた映画が、ティム・バートン監督作品の「ビッグ・フィッシュ」である。ティム・バートン監督と言えば、「シザーハンズ」でつとに有名な監督であるが、この作品は、彼の最高傑作と呼んでもいい作品である。

主人公のエドワードは、話し好きの男、つまらない事実も彼にかかれば、ファンタジーに彩られた至極の物語となり、その話は人々を魅了してやまない。彼の語る話は、妻への愛にあふれている。妻との運命の出会い、一晩で庭を水仙の花でいっぱいにするといったエピソードは、常識で考えればおよそあり得ないが、そんなことはどうでもいいのである。

彼の話はすべての人間を魅了するが、ただ1人、彼に対して、反感を持っている人間がいる。彼の一人息子のウィルである。ウィルは、父の話を嘘八百であると信じ込んでいる。



『ビッグ・フィッシュ コレクターズ・エディション』
DVD ¥3,990 (税込)
発売・販売元：
(株)ソニー・ピクチャーズ
エンタテインメント

ウィルは、切に願う、「善人でも、悪人でもいいから、本当のお父さんを見せて」と。エドワードとウィルは、似たところのない親子である。しかし、父の病気をきっかけに、息子は、嘘八百であると信じ込んでいた父の話の真実を知ることになる。そして、最後、息子は父を完全に理解するのである。このラストシーンに至る過程は、死の直前の人間の話であるのに、まったく暗い気持ちにさせるものではなく、むしろ生きていることへの喜びにあふれており、穏やかな気持ちにさせてくれる。

人生は、すべからく真実と虚構によって構成されているものであり、真実だけが最善のものではない、一番大事なことは、核にある愛、だということがよく分かる作品である。

見終わった後、心が温かくなる、そんな映画。是非、最近心が疲れているなと感じたときに見ていただきたいものである。

(会員 佐藤 嘉寅)